

にその 食べる」「文句も言えない (に) しぶしぶ
従う」「思う通り。自由。」にさせて育てたから
行儀が悪い」「世の中は ならぬ」 《候文(そつ
るごぶん)で接続助詞的に》…から。…あいた。」「
献(いっこん)差し上げたたく存じ候、御光来の程
を願ひ上げ候

「う」では、 「に」に近い。

ふっと

「副」 「群衆の入り混じり、群衆の入り混じり、
ため息をもらす」「その火を 消す」「そつ
しよつという特別の気もなかったのに、突然(の)よ
うに(。」「忘れていた事を 思い出す」 ふと(副)?

「う」では、 。

「こむ

「古語」 「一定場所に入ると、群衆の入り混じり、
うな) 一定場所に入ると、群衆の入り混じり、
になる。混雑する。」「んだ電車」 (アは「混む」
とも書く。… 複雑に入り組む。」「手の んだ(=精

巧な(細工) 《動詞連用形に付いて》 中に入
る。」「風が吹き」「飛び」「切れ」「… その状態
をじつと続ける。」「考え」「だまり」「すっかり
そつなる。」「古い」「せき」「五他? 《動詞連
用形に付いて》 中に入れる。」「レコードに吹き」
「腕で抱え」「大いに(すっかり)そつする。」「自
分を売り」「オーバーを着」「煮」
「う」では、 の「その状態がずっと続く」

ぼうしをかぶったまま、へやに入った。
電氣をつけたまま、外へ出た。

歯ブラシをくわえたまま、歩いてはいけない。
「まま」がついていると、どう?

・そのまんまでいる。

・だったら、電氣がつけっぱなし。

・は、くわえっぱなし。

たとえば、 だったら、歯みがきをしているのか
な?

・うつつん、くわえているだけ。歯はみがいていない。

・そうだね、「まま」がつくと、 ようすがずっと同

じなんだ。難しくいうと、その状態が続いている、

なら、ぼうしをかぶった状態、 なら、電氣がつ

いた状態、 なら、歯ブラシをくわえた状態が続い

ているんだ。

・では、「この」「はしをもったまま」というのは、
ずっと、はしをもっている。

・ただ、はしをもっていて、食べているわけではない。

・みんな、鉛筆をはしのかわりにして、やってみて。

動作化。

・みんなでも、「ご飯を食べているときに、こんなこ
とがありそうだね。

・食べるより、ほかのことが気になっているとき。

・さあ、ここでは、女の子がはしをもったままどう
したかという?

・考えこんでいます。

・何かわからないけど、考えこんでいます。

・そうだ。ここも「過ぎ去らず」になっているから

・……?

・物語の中に入っている。

・おにたから見たところだと思う。

・そう、おにたから見て、女の子は考えこんでいる
んだけど、何を考えこんでいるかはわからないんだ。

・ところで、考えこむになっているね。

・女の子は、何か、考えています。

・女の子は、何か、考えこんでいます。

・どちらがう?

・考えこむの方が、じつと考えている。

・黙って、じいっと考えているような感じ。

・考え方が深いようだね。

・そして、そのときのようすが……?

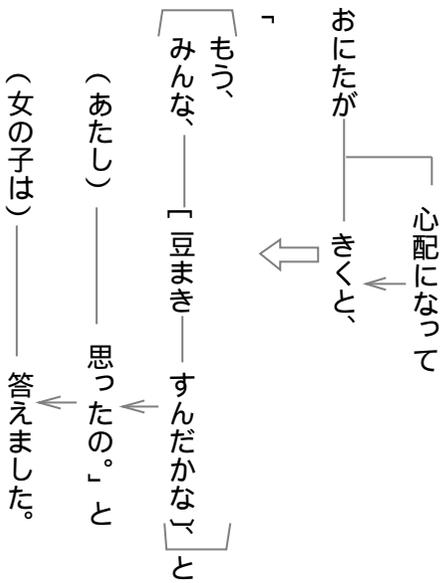
・ふっと

・これはどういふことだろう?

・忘れていたことを、ふっと思い出した。

・先生が、ふっといなくなった。

・ふっと、というのは、急にみえない感じ。



「」では、「」きっかけ「と」さえればよいだろう。ただ、「」すると「」では、その後にはほんとうの理由がかくされていることが多いが、女の子が答えた理由は、おにたがたずねたということ以外には、取り立てて見つからない。

- ・突然っていう感じ。
- ・女の子は、突然考えこんだんだ。
- ・つまり、今までどうしていたのが、急に考えこんだのかというところ？
- ・今まで、おにたが持ってきてくれた「ちそう」を食べていた。
- ・喜んで食べていたんだけど、急に、食べるのをやめて、考えこんだ。
- ・鉛筆を持って、やって見せて。
- ・動作化
- ・さあ、このようすをおにたは見ているんだ。おにたは、どんな気もちになると思う？
- ・どうしたんだらうと思う。
- ・何考えているの、って思う。
- ・そうだね。それが次の文に進めばはっきりする。
- ・この文で、ほかにわかることありますか？
- ・では、次にいきましょう。

文の分析

大きく分けると、「」の「」の「」がある。どこで

切る事ができますか？

「きくと」の後です。

では、はじめの「と」、だれのこと？

おにたのこと。

おにたは、女の子が何か考えこんでいるのを見て、どうだったのかというところ？

心配になった。

そして、……。

きいた。

「」どうしたの？」「と、きいた。

つまり、心配になって、というのは、きいた……？

わけ・りゆう

心配になったからきいたんだ。

ところで、何が心配になったんだらう？

女の子が、何かわからないけど、考えこんでいること。

なんだか、ぼんやりしていること。

何を考えているのかなあと思った。

何か、悪いことをしたのかなあと心配になった。

そうだね。それまでは、きくと、おいしそうに、うれしそうに「ちそう」食べていたのだから、突

あえて挿入するとすれば、

女の子は次のようなことを考えていたので、
のようなことが入るかもしれない。

もう 「既出」

「」では、「」に「」という意味。

然ぼんやりして考えこんだりすると、どうしたんだ
ろつと心配になるものだよ。

そして、おにたがきくと、……、次は誰のこと？
女の子

書いていないけど、わかるね。女の子は……？

・答えました。

・その中身は？

・もう、みんな、豆まきすんだかなと思ったの、です。

・思ったのは誰？

・女の子。

・あやし。

・そうだね。そして、みんなって、……？

・友だち。

・よその家の人みんな。

はつきりはしない。友だちかもしれないし、ほか
のみんなかもしれないし、でも、そのみんながどうだ
つていうのかと？

・豆まきすんだかな。

・ちゃんとした言い方になおすと？

・豆まきがすんだかな？

・どうして、こんなことを思ったんだらう？

・今日が節分だから。

・女の子は、豆まきができないから。

・節分のごちそつを食べたから、豆まきのことを思い
出した。

・そうだね。お母さんにごはんを食べたと言ったと
きも、どう言っているかというと。

・今日は、節分でしょ。って言っている。

・女の子は、今日が節分だというのがちゃんとわか
っていて、気にしていたんだ。節分だから、よそ
の家はごちそつをしているんだらうなって思って
いたんだ。だから、女の子は、うちでも豆まきを
……？

・豆まきをしたと思っていた。

・でも……？

・豆まきはできない。

・何もないんだから、豆もない。

・お母さんが病気だから、豆まきなんかできない。
だから、豆まきのことあきらめていたんだ。

・でも、今……。

・節分のごちそつを食べて、豆まきがしたいなあと思
った。

・いいなあ、思ったんじゃないかな。

・そうだね。そんなことを、女の子はぼんやりと考
えていたんだ。だから、次の文では？

「屹度」と書いた。 きびしい、またけわしい気持を表した顔つきになるさま。」なる「」にらみつける」

とっています。
そうだね。この二つを「くすれば」という言い方でつないでいます。「くすれば」というのをちょっと勉強してみましよう。

・大雨がふれば、このがけはくずれる。
・ガソリンがなくなれば、車はとまる。

大雨がふれば、このがけはくずれる、というのは？
もし、大雨がふったら、このがけはくずれるということ。

・大雨がふらなければ、くずれない。
ということ、こんなふうになるかな。

大雨がふれば (ふらなければ)

↑「このがけは弱いから」

このがけはくずれる。(くずれない)

こついうのを、条件といいます。大雨がふる、という条件があると、がけがくずれるというできごとがおきる、ということ。

これは、条件で、原因ではない。がけがくずれる原因は違うところにあるんだ。この場合は、……？

大雨がふれば、がけがどうだから、くずれるかという？

・がけが弱いから。

・がけがくずれやすくなっているから。

そう、しっかりとコンクリートなんかで強くしているがけならくずれないんだろうけど、このがけはくずれやすくなっているから、大雨がふればくずれるんだ。

では、女の子のことはをみてみるよ。女の子は、どうしているかという？

・おにが—来れば、

↑

きつと

お母さんの病気が—わるくなるわ。

と言っているんだ。

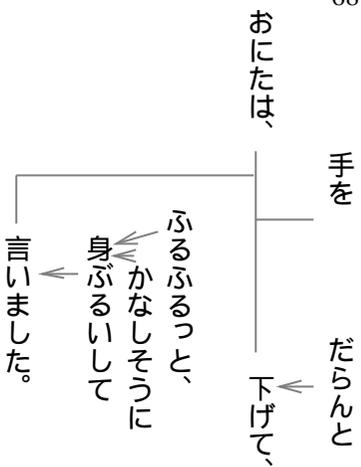
つまり、おにが来るといっのが条件になって？

・お母さんの病気が悪くなる。

おにとお母さんの病気って、関係あるのかなあ。

・関係ない。

・おには悪いから、お母さんの病気を悪くすると、女の子は悪くしているんじゃないの？



みぶるこ「」【身震い】

寒さや恐ろしさなどのために体がふるえ動くこ
 と。「」が起る「」（鳥・けだものなどが）体
 を振り動かすこと。

この場合は、恐ろしさに近い悲しみだったのかも
 しれない。

しかも、きつと、といっているね。

・絶対そうなると思っている。

・おにが来れば、お母さんの病気が悪くなるにちがいないと思っっている。

そうだね、この女の子は、おにというのは悪いものだから、おにが来れば、お母さんの病気が悪くなると思っている。だから、どうしたいかって言うところ。

・豆まきがしたい。

お母さんの病気が早くよくなってほしいと思っっているから、よけいに豆まきがしたいんだ。

この文から、ほかにわかることはありませんか？

では、この女の子のことばを聞いて、おにたはどう思ったのか・・・、次を読んでみましょう。

おにたのようすがたくさん書いてあるよ。

まず、さいしょ、おにたは・・・？

・おにたは、下げています。

・手を下げています。

・下げ方は、だらんとです。

これは、どんなようす？やってみてくらん？

動作化

何かわかることない？

・おにたの元気がなくなった。

・力が入らなくなった感じ。

そして・・・？

・おにたは、言いました。

・みぶるいして言いました。

・みぶるいのようすは、かなしそうにです。

・もう一つ、ふるぶるとみぶるいしました。

身震いというのは、とても寒いときやとても怖いときなどにするものだけど、この場合はどうだろう？

・かなしそうにと書いてあるから、とてもかなしかつたんだと思う。

そのようすが、ふるぶると、て書いてあるね。ぶるぶると、じゃなくて。どんな感じがする？

・大きくふるえているんじゃないかって、小さくふるえて

69「おにだつて、——いろいろなもの。」
おにだつて、——「……………」

だつて 既出

・「無言」などしても、でも、助動詞「だ」「と」で「無言」を助けることはあるが、「助動詞」だ。「と」で「無言」がついたものの転。「だつて」「がイ音便・撥」は「つ」音便のあとについた時の形。「騒いだめた」。「だつて」連続して「……………」

この場合は、

いる。
泣いているんじゃないかなあ。
そうだね。泣いているとき、がまんしているときなどにふるえるね。もしかしたら、泣いているのかもしれない。とても悲しかったんだ。

そして、言ったことばが……？

「おにだつて、いろいろあるのに。おにだつて……。」
おにだつて、という言い方には、どんなきもちがある……だつて、という言い方。

ぼくだつて、そうじべらいするよ。

ふつ、ぼくはそうじをしないとされている。
そうじをしないとされているのがイヤだ。

もしかしたら、よくそうじを怠けているかもしれない。
い。

そういうことも確かにあるけど、決めつけられるのがイヤだ、という気もちがありそうだ。
では、この場合は？

おには、悪いものだど決めつけてほしくない。

おにの中には、悪いのもいるけど、そうでないおに

もいる。

おには全部悪いなんてことはない。

悪いと思われているおにだけど、いろいろなおにがいる。

おにも人間と同じ。

そうだね。そういう気もちがあるんだ。そして、いろいろあるのに、の後が続きそうだ。なんて言いたかったんだろうね。

いろいろあるのに、悪いって決めないで。

いろいろあるのに、豆まきなんかしないでよ。

いろいろあるのに、きらわないで。

そういう気もちがあったんだ。

そして、最後が……で終わっている。これについては、次に考えてみることにしよう。

おにだが、こんなに悲しくなったのはどうしてなんだろう？

女の子が、おにが来るとお母さんの病気が悪くなる
といったから。

女の子が豆まきをしたといったから。

そうだね。思い出してみてください。おにだがこの女の子の家に来たのは、どうしてだったかという
と？

小さな総合)まとめ

- ・まことくんの家で、まことくんが豆まきをしたから、逃げてきた。
- ・女の子の家は、豆まきをしそうになかったから、ここにいった。
- まことくんのいえでは、ビー玉を拾ってきたり、洗濯物を取り入れたりしたけど、結局、「おにはそと」といって、豆まきをされてしまったんだ。
- そして、この家に来て、女の子がごはんを食べていないのを知って？
- ・女の子に、ごちそうを持ってきてあげた。
- ・女の子を喜ばせてやるうと思って、ごちそうを持ってきた。
- ・女の子のことがかわいそうで仕方なかったんだ。
- ところが、その女の子は、おにたのことなんか知らないから・・・？
- ・豆まきをしたかった。
- ・おにが来ると、お母さんの病気が悪くなるわよって、ほんとうは？
- ・全然そんなことはない？
- ・おにたは、いいおにだもん。
- でも、そんなことは女の子は知らない。それに、おにたも、女の子に教えたりはしない。つまり、わかってももらえないままなんだ。まことくんの家でも、

そうだったね。

では、ここまですべて読んでみましょう。

まとめて読んでみて、何か新しくわかったことがありますか？

おかあさんが　めをさまさないように、おんなのこは　そつと、まめを　まきました。
「ふくはー　うち。おにはー　そと。」

むぎわらほつしからくろい　まめを　まきながら、おんなのこは、

(さっきのこは、きつと　かみさまだわ。そうよ、かみさまぢ・・・)

と、かんがえました。

(だから、おかあさんだつて　もうすぐ　よくなるわ。)

ほら　ほら　ほら　ほら

ほら　ほら　ほら　ほら

とても　しずかな　まめまきでした。

おかあさんが「めをさまさないように」

そつと

まめを

おんなのこは「まきました。」

おにたが残した豆「おにた自身？をまく女の子。女の子は、急に消えたおにたを「かみさま」だと考えた。お母さんが病気で、まずしいくらしをしてい
る今の状況が、このまめまきでよくなると考えた。
おにたの思いとは裏腹となった女の子のまめまきへの
思いは、結果的には、自分を消滅させるほどの悲
しみ・落胆をおにたに与えた一方、女の子にとって
は希望を抱かせるものとなった。
明日から、春なのだ。

「ふくはー　うし。おにはー　そと。」

豆まきをしました、ではなくて、豆をまきました、
と書いているよ。そのことから、わかることない？
・豆まきをしましたは、豆まきという行事をしている。
・豆をまきましたは、豆を大切にしている感じがする。
豆まきをしたい、と思っているときに、目の前に
あらわれた豆だ。大切にあつかっているんだらう。
まめをまいているよつすは？

そつと、です。

・おかあさんがめをさまさないように、です。

お母さんが目をさまさないように、というのには、女
の子のどんな気持ちかわかる？

・せつかく眠っているのだから、そのまま眠らせてお
いてあげたい。

・お母さんのことを心配している。

・とすると、おかあさんがめをさまさないように、
まきました、というよりも・・・。

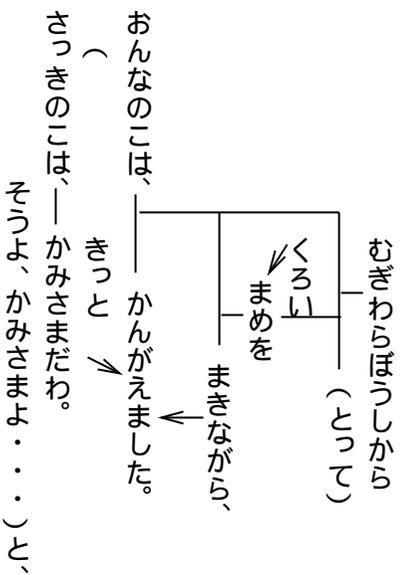
・そつとした。

・音をたてないように気をつけたんだと思う。

・音をたてないように、もう一つあるよ。

「ふくはー　うし。おにはー　そと。」と、言つのも、
そつと言つたと思つ。

どんなふうに言つたんだらう。言つてみてしらな。



女の子のしたことは？

- ・まきながら、かんがえました。
- ・むぎわらぼうしから、まきながら、と書いてあるけれど、何かへんじやない？何かかぬけている。
- ・むぎわらぼうしから、まめをとった。
- ・まめをつまんだ。

豆をとったことがぬけています。でも、むぎわらぼうしからまきながら、と書いてあると、どんな感じがする？

- ・とるのはわかっていているから、書いてない。
- ・むぎわらぼうしからまく、というところ、むぎわらぼうしに手をつつこんで、そのまますつと手を出してまいているかんじがする。
- ・そうだね。ところで、このまめは、どこにあったんだ？たかなあ？ここでも、女の子のしていることが一つ書いてないよ。
- ・豆は、むぎわらぼうしの下にあった。
- ・女の子は、豆をひろって、むぎわらぼうしの中に入れたんだ。
- ・そういうことになるね。おにたのぼうしに、おにたが残した豆を入れたんだ。そこから豆をとって、まいているんだね。
- ・まきながら、と、ながらがついているよ。

- ・ついで動き。
- ・同時形。
- ・まきながら、かんがえました。
- ・まいているときに、考えています。
- ・まくのをやめて考えているんじゃないんだ。まいているときに考えた。そのなかみが？
- ・（おつきの）「は、きつと、かみさまだわ。そつよ、かみさまよ・・・（と、かんがえました。
- ・おにたのことをかみさまだと考えた。きつと、って考えている。きつと、というのは、前にも女の子は言っていたよね。
- ・「おにが来れば、きつとお母さんの病気が悪くなる」と、言っていた。
- ・女の子はわかっているけど、おにたの前でそんなことを言っ、おにたを悲しませた。そしてここでは・・・？
- ・きつと、かみさまだと言っています。
- ・きつとってというのは、まちがいないと思っているんだよね。そのあと、「そつよ、かみさまよ・・・」と思っっている。これは、どういう気もち？
- ・一人で、いろいろと考えている。不思議だなあと思っ、て、・・・。
- ・かみさまじゃないかもしれない、とも思ったりもし

たけど、でも、かみさまとしか考えられないっていうこと。
ちよつと、へんだなあ、とは思っているけど、結局、神様にちがいないと思っただ。女の子は、どう思ったから、そんなに言いきることができるとだるう？
・急に消えたから。
・雪がふる寒い晩に、こちそうをもってきてくれたりしたから。
・豆がおいてあったから。
・女の子が願っていることが、次々とかなったから。
でも、本当はおにの子どもだ。おにが来れば、お母さんの病気が悪くなると言っていた女の子が、今、おにたをかみさまだと思って、おにたの豆を、おにたの帽子に入れてまいているんだね。

（だから
おかあさんだつて——もうすぐよくなるわ。）

そして、つづいて思ったことが？
・だから、おかあさんだつて、もうすぐよくなるわ。
だから、というのは、どうだから？
・かみさまだから。
・かみさまがくれたまめだから、そのまめをまけば、お母さんの病気がよくなると思っただ。
そう思っただ。これは、つまり、女の子のどんな気持ちがつまっているのかなあ。
・お母さんの病気が早くよくなってほしい。
・きつと、お母さんの病気はよくなると思っただ。
女の子は、自分にいいように考えているんだね。